

目の成人病

はくないしょう りよくないしょう かれいおうはんへんせい
[白内障、緑内障、加齢黄斑変性]

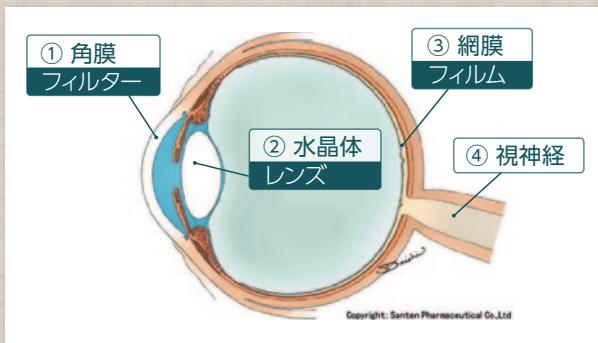


体と同じように、目も歳を重ねるにつれて「老化」が起こり、また「病気」が起こりやすくなります。老化は誰にでも起こる現象で、例えば、40歳を過ぎて「小さな字が見づらい」などの現象が起こる「老眼」などが代表的なものです。

一方、目にも年齢とともに増える「成人病」といえるものがあります。例えば、白内障、緑内障、加齢黄斑変性などです。自分では「歳のせい」と思っている、これらの病気である可能性もあります。何か見え方がおかしいと感じたら、眼科で検査を受けましょう。早期発見が大切です。

目が見えるしくみ

病気の説明をする前に、私たちの目はどのようなしくみで見ることができるのかについて、簡単に説明します。目のしくみはカメラに例えることができます。



①角膜(フィルター)を通して入った光(映像)は、②水晶体(レンズ)を通り、③網膜(フィルム)に像を結びます。その情報が④視神経を伝わって脳に送られることで「見える」のです。今、お読みになっているこの文章も、同じように網膜で感じ取った光が脳に伝わって「見えて」ということになります。目の老化や病気は、この目の「装置」のどこかに生じる不具合が原因になります。

- ・白内障・・・「水晶体」の不具合
- ・緑内障・・・「視神経」の不具合
- ・加齢黄斑変性・・・「網膜」の不具合

白内障(はくないしょう)

白内障は、目の水晶体が白く濁ってしまい、光がよく通らなくなるために視力が低下する病気です。

水晶体が濁る理由

水晶体はたんぱく質と水でできており、通常、たんぱく質は水に溶けているため透明です。しかし、加齢や長年に受ける紫外線の影響などで、だんだんとたんぱく質が変化して、水に溶ける性質を失うと、白く濁ってきます。

主な症状は？

- ・目がかすむ。
- ・光がまぶしい(明るい場所で見えにくい)。

治療法は？

- ・水晶体を濁らせる原因になるたんぱく質の変化を抑える目薬(カリーユニなど)で進行を抑えます。
- ・生活に支障が出る場合などは、手術*で治療します。
- *濁った水晶体を取り除き、かわりに人工のレンズを入れます。

緑内障(りよくないしょう)

緑内障は、何らかの原因で、目の神経(視神経)が障害され、視野(見える範囲)が狭くなってくる病気です。

目の中の圧力(眼圧)が上がって、その圧力で視神経が障害されたり、また、眼圧は上がらなくても、視神経が弱ってしまったりすることが原因で起こる病気です。

眼圧が高くなる理由

目の中では「房水(ぼうすい)」と呼ばれる液体が絶えず作りだされていて、作られた分だけ目の外に排出されています。しかし、この排出がスムーズにいかなくなると、房水が増えて目の中の圧力が上がってしまいます。年をとると、房水の流れが不安定になるため、緑内障が起りやすくなると言われています。

視神経が弱くなる理由

視神経の周りの血のめぐりが悪くなることで、視神経に十分な栄養が行き届かなくなると、視神経がダメージを受けて、眼圧に対して弱くなります。

主な症状は？	<ul style="list-style-type: none"> ■ 視野(見える範囲)が狭くなってくる。 ■ 視野に見えない場所ができてくる。 * 症状の進行はゆっくりなことが多く、気がつかないことも多いです。 <p>早期発見のためには定期的な眼科検診が有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 急に眼圧が高くなった時は、頭痛、激しい眼痛、吐き気、充血などが起こります。その場合は、直ちに受診してください。
治療法は？	<ul style="list-style-type: none"> ■ 房水の増加を防いで眼圧を下げる目薬*を使います。 * 房水が作られるのを抑える薬(チモプトール、ミケラン、トルソプトなど) * 房水が眼から出て行くのを促す薬(キサラタン、レスキュラなど) ■ 薬で十分な効果がない場合は、レーザー治療や手術で、房水の逃げ道を作り、眼圧を下げます。

眼圧を上げる薬に注意！

薬の中には、眼圧を上げる副作用をもつものがあります。緑内障の方は、病院にかかる時や市販薬を買う時は、医師や薬剤師にお薬手帳を見せて、緑内障で治療中であることをお伝えください。

加齢黄斑変性(かれいおうはんへんせい)

あまり聞きなれない病気かもしれませんが、日本でも人口の高齢化などによって増えています。この病気は、目から入った映像を写し取る網膜の中で最も重要な働きをしている「黄斑」という部分が、加齢とともにダメージを受けることで、視力が低下します。

黄斑がダメージを受ける理由

ダメージを受ける理由には2つあります。ひとつは、「萎縮型(いしゅくがた)」といって、黄斑が加齢とともに徐々に縮んでいくために起こります。

もうひとつは、「滲出型(しんしゅつがた)」と呼ばれるもので、網膜のすぐ下に本来は不要なもろい血管(新生血管)ができて、この血管からの出血などが黄斑にダメージを与えます。

主な症状は？	<ul style="list-style-type: none"> ■ モノがゆがんで見える。 ■ 視野の中心が暗くなる・欠ける。
治療法は？	<ul style="list-style-type: none"> ■ 萎縮型の場合は、進行が遅いので特に治療は必要ありません。症状が進行していないか、定期的に眼科でチェックを受けましょう。 ■ 滲出型は、新生血管が増えるのを抑える薬を眼球に注射する治療や、レーザーで新生血管を壊す治療などが行われます。



【参考文献】

- 1) 参天製薬：目の病気百科
<http://www.santen.co.jp/ja/healthcare/eye/>
- 2) 丸尾 敏夫：40歳からの目の健康管理 目と成人病(千寿製薬小冊子)